

福津市の未来をつくる 3 つの柱

×

キッカケラボの取り組み

福津市の未来をつくる柱

1

「災害に強く、安心して暮らせるまちづくり」につながる取り組み



命と暮らしを守るまちへ

1-1 「女性のための災害対策ハンドブック」の普及チームを結成

- 男女共同参画推進室が市民と作成したハンドブックを届けるための取り組み
- 防災を軸に、多様な主体が対話でつながる「テーマ型ネットワーク」を創出
- 相談対応・場づくり・伴走支援を通じ、市民主体の普及チームを結成
- 現在は地域への自主的な啓発活動へ発展

1-2 防災士資格を活かした避難所運営ゲーム「HUG」を定期的を開催

- 市民が避難所運営を疑似体験し、地域の防災意識を高めるための企画運営
- 防災士資格を持つコネクターを中心に「HUG」を開催
- 参加者の相談対応、専門的な話題提供、プログラムのコーディネート、伴走支援を実施
- 市民一人ひとりの防災意識と地域防災への理解が深化、地域全体で助け合う「共助」の意識醸成

1-3 日本カーシェアリング協会と連携した「車の無償貸出支援」

- 令和 7 年 8 月豪雨災害で、行政・民間・地域をつなぐ相談・受入窓口を自主事業として担当
- 日本カーシェアリング協会と連携し、ラボ内にサテライト拠点を設置
- 受付・調整を一体的に行い、被災者の移動手段を確保
- 官民連携の中間支援拠点として、多様な主体をつなぐ強みを発揮

福津市の未来をつくる柱

2

次世代を育む教育環境の整備につながる取り組み



安心して学べる環境が、福津の未来をつくる

2-1 市内 3 中学校の生徒会へ「ウェルビーイング × 福津」を実施

- 郷育推進課の依頼を受け、「中学生未来会議」の事前学習として市内 3 中学校の生徒会役員を対象に講座を実施
- 地域への理解や愛着、当事者意識を育み、生徒が地域の未来を考えるきっかけづくり

2-2 福間東中学校で全校一斉ボランティア講座と交流会を開催

- 福間東中学校生徒会からの相談を受け、ボランティア講座と地域住民との交流会を企画・実施
- 生徒と地域が交流する機会を創出し、主体性や社会参画意識を育む場に

2-3 光陵高校の「探究学習」に伴走、高校生と地域・企業とのつながりを創出

- 光陵高校の探究学習において、相談対応や市民活動団体・企業とのマッチングを実施
- 地域とのつながりを広げ、高校生が主体的に学び成長できる環境づくりを支援

2-4 福岡工業大学と連携し、地域課題に取り組む人材を育成

- 福岡工業大学と連携し、地域学習に向けたコーディネートやマッチングを実施
- PBL や「パスクール」を通じて、地域課題に主体的に関わる人材の育成につながった

福津市の未来をつくる柱

3

人も企業も行政も「稼ぐ」まちづくりにつながる取り組み



地域の力で、持続可能な経済を育てる

3-1 地域商社と連携し、福津の特産品開発を推進

- 「福津いいざい」と連携し、地元食材を活用した特産品開発を実施
- 参加者の募集やコーディネート、伴走支援を行い、完成した商品はイオンモール福津で販売されるなど、「稼ぐ」地域経済づくりにつながった

3-2 民間企業との連携により、地域課題の解決と企業参画を推進

- SDGs をテーマとした「キッカフェ」を通じて、企業と市民が対話・交流する機会を創出
- 企業ごとの特性に応じたコーディネートや伴走支援、地域との協働や企業の主体的な参画を推進

3-3 放置竹林の課題を価値に変えるビジネスモデルを創出

- 地元企業からの相談をきっかけに、多様な主体が連携するネットワークを構築
- 「ふくつメンマプロジェクト」の立ち上げ・伴走支援、地域課題を地域資源へ転換する取り組み創出

3-4 資金調達を支援する助成金講座と市民活動の基盤強化

- 約 300 項目の助成金情報を活用し、相談対応や助成金講座、申請支援を実施
- 地域プレイヤーの資金調達力を高め、市民活動が持続的に発展する基盤づくり

1

多くの「場」と「機会」が生まれました！

キッカケラボの誕生により、市民活動を支え育てる「場」と「機会」が生まれました。今では、市民が自らラボを訪れ、人とつながりながら新しい活動を生み出しています。

場

産学官民・福津で活動したい人なら
誰でも集えるプラットフォーム

有識者・実践者による「未来共創会議」と行政&NPOの「事務局」による公民連携型の運営体制を実現。「学」の分野では、地元の中・高、市外の大学から連携を求める声が届いています。



機会

多様な主体が集まり、
学び、つながるプログラム

- 市民活動の基礎講座（ボランティア、市民活動、資金調達、広報）
- 市民活動の入口（ふくつたいけんプログラム、地域デビュー講座）
- 対話の学び・実践（場づくりファシリテーター実践塾BA-School）
- テーマ型交流会（SDGsのキッカフェ、地域課題の円卓会議）
- ふくつプレイヤーズ（市民が参画しやすい仕組みづくり）

3

相談から課題へのチャレンジ！

従来のコーディネートに加え、団体の運営相談や活動を始めたい人へのスタートアップ相談、行政からの共働に関する相談も増えています。

- 市内3中学校の生徒会を対象とした「未来会議」に向けたワークショップ（教育委員会）
- 環境フォーラム参加団体の取りまとめ／準備会議のファシリテーション（うみがめ課）
- 子どもの遊びをサポートする／市民ボランティアのチーム化（郷育推進課）

5

まちへの新しい入口！

キッカケラボでは、「楽しさ」や「やりがい」など、一人ひとりの価値観や興味を大切にしたサポートを展開しています。

その結果、新たなまちの担い手が生まれてきており、BA-Schoolには10代から70代まで、総勢99名が参加。卒業後も多くの人が活躍しています。



8

先進的な取り組みが注目を集める！

全国各地の自治体や中間支援組織など、多くの視察・問い合わせをいただいています。令和5年6月から令和7年3月までの視察団体数は55件。多様な主体が参画するキッカケラボの取り組みは、高い関心を集めています。

2

施設の利用者が多様に！

ボランティアセンター時代と比較すると、より多様で、多くの方々にご利用いただける施設へと成長しました。

それに加えて大きな変化と言えるのは、以前は市民活動団体に限られていた利用属性が、企業や行政、地域、学校など、多岐にわたるものに変容していることです。

4

「市民」の力、スキルアップ！

市民の中から5名が現地スタッフである「コネクター」として、現地での経験を重ね、まちのことに取り組む人たちとの繋がりや中間支援にむけたスキルを向上させています。ボランティアコーディネートの資格も取得し、多くの市民活動団体をサポートしています。



7

市民活動と幸せがつながる！

ヒアリングや相談対応、市民意識調査をもとに、「幸せ」と「市民活動」の関係性を福津オリジナルの「9つの関係」として整理・図式化しました。この考え方は、「ふくつウェルビーイング大賞」の評価基準やコネクターの相談支援にも活用され、市民活動を支える指標となりました。

